

## 6 南薩の特色を生かした戦略的花き産地の育成

### 大塚地区の花き産地の維持・発展

#### 成果の要約

- 1 若手生産者組織で産地の共有する課題を共同プロジェクトで取り組み、その成果を産地へ波及する体制を整備した。また、産地の課題を解決しつつ、担い手を育成する体系づくりができた。
- 2 パック花加工業者のニーズにあったスマートフラワー（以下SF【短茎キク】）規格（70cm）の検討を行った。また、実需者とマッチングをはかりながら、新たな生産体系の目処がたった。

#### 1 対象

- (1) 枕崎市大塚花き生産者協会 22戸
- (2) 枕崎市大塚周年菊研究会 8名  
(若手生産者組織)

#### 2 課題を取り上げた理由

- (1) 高齢化や後継者不在等により、生産者数が減少傾向にある。花き団地では、長年、白輪ギクの生産が盛んであったが、コロナ禍で業務用に使われる輪ギク需要が減少し、また、燃油や肥料などの生産コストの上昇が続いている。花きの消費動向では、量販店での50～60cmのパック花の需要が、増加している。
- (2) 持続的で新しいキク切り花経営(SDGs)に向けて、新たな生産体系、販売価格、選別基準(生産コスト、輸送コスト削減、新たな販売チャンネルの開拓)の検討も併せて取り組む必要がある。

#### 3 活動の内容及び成果

- (1) 担い手の確保・育成
  - ア プロジェクト活動の提案  
周年菊研究会へは、毎年個別プロジェクトへの支援を行っており、会員の課題解決活動の意識が高まっている。  
産地(研究会会員)の共通する課題解決に向け共同で取り組むことで早期解決が図れると想定される場合は、共同プロジェクトに取り組むよう提案した。
  - イ 課題の設定  
大塚団地の花き農家では、白輪ギクの生産が盛んであったが、コロナ禍で業務用に使われる輪ギク需要が減少し、新たな販売

チャンネルの開拓に取り組む必要があると意見があり、皆が一致する産地共通の課題となった。そこで、夏期の物日向けのSF向け栽培体系の検討について共同で取り組むことになった。



写真1 プロジェクト活動検討の様子

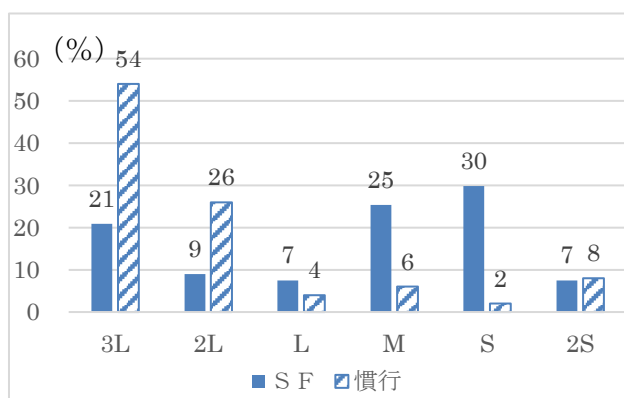
- (2) 産地共通の課題解決に向けた共同プロジェクトの実践支援
  - ア 共同プロジェクト活動計画書の作成  
物日向けSF栽培体系の目標を設定した。盆出し、秋彼岸出し栽培体系の確立に向けた実証ほを設置して、活動計画を検討した。
  - イ 関係機関との連携による検討  
農業開発総合センター、JA、市と、実証ほの設置や調査、現地検討を通して技術確立に向けて連携を図った。

**表1 耕種概要及び収穫期**

|     |  |         |      |      |
|-----|--|---------|------|------|
| 定植日 | 4/26                                   | (発根苗)   |      |      |
| 消灯日 | 6/4                                    |         |      |      |
| 作式  |  |         |      |      |
| S F | 15cm6目ネットに3-2-2-2-3本植え (62,222本/10a)   |         |      |      |
| 慣行  | 15cm6目ネットに2-2-1-1-2-2本植え (44,444本/10a) |         |      |      |
| 区   | 収穫始                                    | 収穫盛期    | 収穫終  | 到花日数 |
| S F | 7/23                                   | 7/27~29 | 8/3  | 53   |
| 慣行  | 7/20                                   | 7/23~25 | 7/30 | 49   |

**表2 収穫時の生育調査**

|     |         |        |           |
|-----|---------|--------|-----------|
| 区   | 草丈 (cm) | 全重 (g) | 70cm重 (g) |
| S F | 99.4    | 69.7   | 43.6      |
| 慣行  | 85.8    | 93.2   | 62.3      |



**図1 盆出し出荷規格別本数割合**

**表3 規格別単価 (円)**

|         |    |    |    |    |    |   |
|---------|----|----|----|----|----|---|
| 区       | 3L | 2L | L  | M  | S  | 外 |
| S F     | 90 | 65 | 65 | 65 | 65 | 0 |
| 慣行      | 90 | 90 | 80 | 75 | 65 | 0 |
| 提案価格 例年 |    | 90 | 80 | 75 | 65 |   |
| R4年     |    | 90 | 85 | 80 | 70 |   |

**表4 規格別売上 (千円/10a)**

|     |       |       |     |       |       |   |       |
|-----|-------|-------|-----|-------|-------|---|-------|
| 区   | 3L    | 2L    | L   | M     | S     | 外 | 計     |
| S F | 1,170 | 362   | 302 | 1,026 | 1,207 | 0 | 4,068 |
| 慣行  | 2,160 | 1,040 | 142 | 200   | 58    | 0 | 3,600 |

ウ 共同プロジェクトの活動の実施

盆出し出荷作型で慣行栽培の作式(慣行区)とS F栽培の作式(S F区)で実証ほを設けて生育, 収穫調査を行った。

S F区は, 慣行区に比べて1.4倍の栽植本数であった。実証結果から, S F区の収穫時の生育は, 慣行区に比べて草丈は長く, 全重, 70cm重は軽かった(表2)。家庭用のパック花需要は, MSサイズの要望が高い。収穫時の規格別本数割合は慣行区に比べて

S F区のMS率は高く, 55%であった。慣行区は業務用向けサイズの2L以上が高く80%であった(図1)。

また, 合計の売上げは, S F区が慣行区に比べて468千円/10a高かった。次年度以降は更に新需要のパック花向けMS率を高めた作式を検討して新たな販売チャンネルの開拓に向けた栽培技術の確立を行う(表4)。



**写真2 プロジェクト現地検討会**

(3) プロジェクト活動実績の産地波及  
ア プロジェクト活動を通じた産地課題を解決する体制の整備と活動報告

大塚花き生産者協会の研修会等において共同プロジェクトの活動状況や実証成果について実証栽培代表農家が報告した。

地元生産者の関心も高く, 活動について理解を得られ, 成果を地域へ波及する基盤ができた。

また, 研究会会員は自らが取り組んだ活動が地域に貢献できることで自信につながり, 元気な活力ある産地の担い手に育ってきた。

**4 今後の課題**

- (1) 継続したプロジェクト活動の支援による若手生産者の資質向上支援
- (2) 母体である大塚花き生産者協会での成果発表を通じた産地への成果波及
- (3) 関係機関との連携強化による支援体制の強化

**5 担当した普及職員 (○はチーフ)**

○藤崎, 松木田